



米消費者物価の上振れでも米国株が続伸した背景

- 1月の米消費者物価指数(CPI)は市場予想を上回る上昇に。CPIの上振れでも米国株は4営業日連続の上昇を維持。
- CPI・コアCPIの前年比は先月から横ばい。衣料品と医療サービスの価格上昇は一時的要因が影響した可能性。
- VIX指数の低下により市場変動への懸念は後退。米長期金利上昇は利ざや改善期待から米金融株を押し上げ。
- 米長期金利が2.90%へ上昇する中、米国株に金利上昇への耐性が戻りつつあることは市場安定化の兆候。

1月の米消費者物価は市場予想を上回る上昇に

パウエル新体制での米連邦準備制度理事会(FRB)の金融政策を占う上で注目された2018年1月の米消費者物価指数(CPI)は、前月比+0.5%と市場予想(前月比+0.3%)を上回りました。変動の大きいエネルギーと食品を除いたコアCPIも、前月比+0.3%と同じく市場予想(前月比+0.2%)を上回る結果となっています。

CPI上振れによって金利上昇への懸念が高まったにもかかわらず、2月14日のS&P500指数は前日比+1.3%と4営業日連続の上昇を維持しました(図2)。この背景として、次の4つの点が挙げられます。

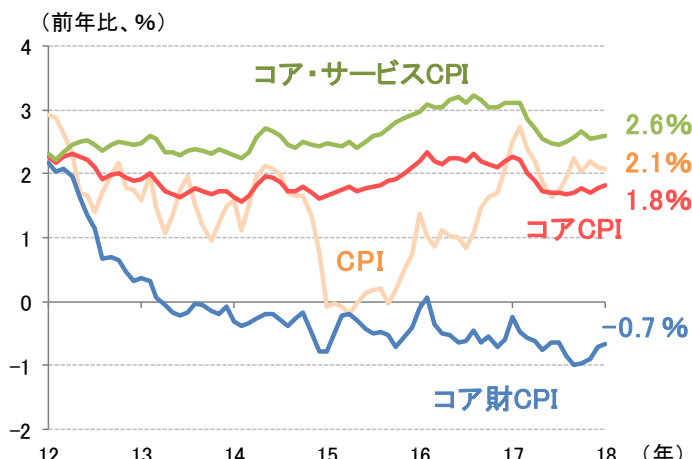
CPI上振れでも米国株が上昇を維持した背景

- ① CPIおよびコアCPIの前年比伸び率は、各々+2.1%および+1.8%と2017年12月から横ばいとなった(図1)。
- ② コアCPIを主に押し上げた衣料品(前月比+1.7%)と医療サービス(前月比+1.3%)は、寒波到来やインフルエンザまん延など一時的要因が影響した可能性がある。
- ③ VIX指数が2月2日以来の20ポイント割れの水準へ低下し、株価変動への市場の懸念が後退した(図2下段)。
- ④ 米長期金利の上昇によって利ざや改善が見込まれる金融株が米国株の上昇を下支えた(2月14日のS&P500金融株指数は前月比2.3%の上昇)。

米国株に金利上昇への耐性が戻りつつある

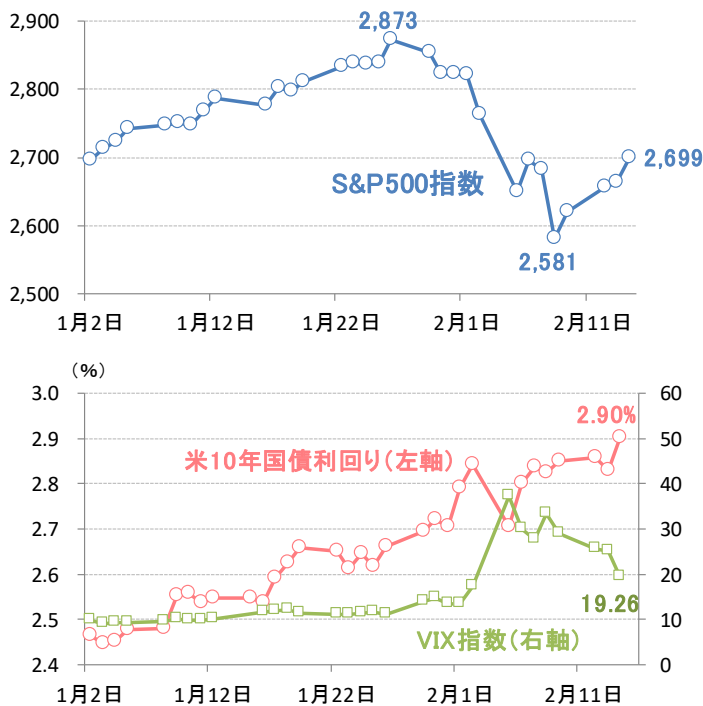
CPIの上昇を背景に米10年国債利回りが2.90%へ上昇する中、米国株に金利上昇への耐性が戻りつつあることは、米国株式市場が安定化に向かい始めた兆候と考えられます。次回3月20~21日の米連邦公開市場委員会(FOMC)までの重要イベントの第一関門(CPI統計)は無難にクリアした市場ですが、今後は引き続き2月28日と3月1日のパウエルFRB議長の議会証言に注目が集まります。

図1:米国の消費者物価指数(CPI)の推移



(出所)米労働省 (期間)2012年1月~2018年1月
(注)コアCPIはエネルギー・食品を除くCPI。

図2:2018年初来の米国株と米長期金利、VIX指数



(出所)ブルームバーグ (期間)2018年1月2日~2月14日

●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。その情報の確実性、完結性を保証するものではありません。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。